

令和8年度 磐田市行政経営審議会 第6回分科会 議事録

【日 時】 令和8年6月2日(火) 18 時 30分から 20 時 15 分まで

【出席者】

●委員 4名

秋元富敏 委員 大澤房男 委員 松本典子 委員 茂木眞佐代 委員 (井上佳子委員は欠席)

●事務局 7 名

企画部長 総務部長 財務担当部長 自治市民部長 政策推進課課長・グループ長・主任

【内容】 第3次総合計画前期基本計画(素案)「分野2 自治・共生」「分野7 行政経営」についての検討

第3次磐田市総合計画前期基本計画(素案)についての検討

【分野2 自治・共生】

※分野2には「スポーツ・文化・観光」もあるが、「スポーツ・文化・観光」は第1回分科会で検討。

●基本政策1 市民によるまちづくりと共生社会の推進 についての主な意見

- ・指標「市民活動団体登録数」は、団体数よりも、実際に登録している人数の方がよいのではないか。
- ・背景の「共生社会の重要性」の2段落目に「多様性を認めあい、様々な価値観を尊重することで～」とあるが、最近はそこから一歩進んで、多様性をまちの強みや活力として取り入れ一緒にまちづくりを行っていく「インターカルチュラル」という考え方が広まっている。ぜひこの要素も含めてほしい。
- ・背景の「新たな人権問題の出現」で、「差別や偏見の解消、こどもの権利の尊重など」とあるが、背景なので「解消」や「尊重」など目的にあたるような表現は少し違和感があるので修正したほうがよい。
- ・施策(1)に「小規模多機能自治」がある。進めていくことがすごく大切だと思っているので言葉が入っていてよかった。その一方で、近年草刈りにタイマーを活用すると言っており、小規模多機能自治の理念と相反する可能性があると感じる。小規模多機能自治の先進自治体では、道路などの草刈りも自治組織に報酬を出して依頼し、市民の自治活動を後押ししているといった事例もあるので、そういったことも今後検討していけるとよいのではないか。
- ・市民活動団体は、担い手不足や高齢化となっているが若手が参加してもらえていない。若手からお年寄りまで楽しめる形がいいのではないか。
- ・施策(3)「共生社会の推進」について、外国人住民の自治会活動への参加やごみだしの問題などがある。日本人も外国人も地域のルールやマナーを守って一緒に地域づくりをしていくことが今後必要だと感じるため、そういった趣旨を主な取組に含めてほしい。
- ・地域のルールを守っていくことに関しては、正論を言うことも大事ではあるが、知らない人にいきなり言われても反発してしまうところもあると思うので、まずは関係づくりをしっかりと行うことが大切。

- ・国籍の違いだけではなく、同じ日本人同士でも、神社の祭りや地域行事に対する考え方が大きく異なっているため、多様な価値観を認め合うことが重要。
- ・施策(3)に「インクルーシブ教育」の記載があるが、「誰もが同じ場所で」というのはかなり高い目標。大阪では、かなり重度な子どもでも同じ教室で学んでいるところもあるので、常に同じ場所を目指すわけではないのであれば、書き方や表現を修正したほうがよいのではないかと考える。
- ・共創への取組の3点目、「～差別や偏見のない社会づくりにしよう」とあるが、「づくり」は不要。

●基本政策2 学びと対話の推進 についての主な意見

- ・「ここからラボ」の取組は大切だと思っているが、トピックスのトップに来るくらい大切だと思うと、もっと周知して、申請団体を増やす取組を推進してほしい。
- ・施策(2)で「第三の居場所としての図書館の活用」とあるが、それは児童館に代わるものなのか。世田谷区では児童館職員がフロター制度を設け、子どもたちの居場所に関する取組を進めているため、磐田市も児童館を作るか、児童館の機能をどこかに持たせてほしい。
- ・ユースセンターを作ることは考えていないのか。自治から始まるまちづくりが磐田市の特徴だとしたら、若者が考えてまちをつくっていくようなユースセンター、企業や小中高が交わっていつでも取り組めるラボ的な場所があるといいと考えている。
- ・浜松市が行うような起業家のまちづくりではなく、磐田でしかできない、地元で根付いた若者をつくることに戻ってきてもらえることにつながるのではないかと考えている。地元愛や地元に貢献できる人材を育てる学びと対話を進めてほしい。
- ・磐田市の図書館は、小さい子向けのイベントが多く、中高生向けがない。読書コミュニティとして、何を読むかよりも、誰と読んで誰と意見を共有するかが大切なので、そういう環境を整えてほしい。
- ・図書館について、東京で図書館内に使い方自由な貸しスペースを予約できる制度がある。子どもは勉強、グループミーティング、大人は仕事ができる。図書館というイメージにとらわれるのではなく、人が集まって話し合ったりできるようになるとよいと思う。
- ・リカレント教育が大事だと考えている。産業大学で市民講座など開設されているが、ハードルが高い。気軽に参加してもう一度始めたい人が学べる環境にしてほしい。交流センター講座よりも一歩進んだ学びを求める人もいると思うので、気軽に参加できるようなPRができるとよいと思う。
- ・施策(3)に農林環境専門職大学があるが、より積極的にPRしてほしい。全国的にも貴重な大学であり、農業だけでなく、林業や環境分野においてもこれから重要になってくる。市民の認知度が低いと思うので、推進や発信に取り組んでほしい。
- ・施策(4)「市政参画の推進」について、「～市民が市政に対して提言できる機会の充実を図ります。」となっているが、提言で終わってしまうよりも、一緒にやってみようという気持ちになるような表現に修正したほうがよい。

【分野7 行政経営】

●基本政策1 効率的・効果的な行政運営の推進 についての主な意見

- ・基本政策名が「効率的・効果的な行政運営の推進」で「効率的」が先になっているが、施策の一番目が「共創によるまちづくりの推進」となっており、「効率的」であれば(3)が一番上ではないかと思う。
- ・施策(1)の表題に、「まちづくり」が入っているから違和感があるのではないか。「共創によるまちづくりの推進」から「共創」をベースにした効率的な行政の推進」みたいな表現に修正するとよいのではないか。
- ・指標「企業との連携協定数」とあるが、数よりも質を重視していくのが大事だと思う。

●基本政策2 持続可能な財政基盤の確立 についての主な意見

- ・指標「ふるさと納税寄付金額」の目標値は実績の3倍近くであり、少し目標が高いのではないか。達成できる手立てや見込みがあるのか。
- ・施策(2)に、「時代に合わせた補助金の見直し」とあるが、少し分かりにくく感じるので、表現を検討してほしい。

●基本政策3 機動的な組織体制の構築と人材の育成 についての主な意見

- ・「Topics」の一つ目が、外部人材の話だと違和感があるので、順番を入れ替えた方がよい。
- ・指標「地域おこし協力隊員数」は、目標値が28人とかなり高い印象。人数を増やすのもよいが、どんな分野で積極的に活用していくのかしっかりと検討する必要があると感じる。
- ・政策の背景に、「時代の変化に対応した職員研修」の写真があるが、何をしているのか分からないので別のタイトルにするか、写真を変更した方がよい。
- ・基本政策名が「機動的な組織体制の構築と人材の育成」となっており、施策(1)の「組織体制の構築」は地域おこし協力隊の活用がメインではないと思うので、順番を検討したほうがよい。
- ・人材育成が非常に重要であり、施策(2)では自律型の職員の育成を目指すとなっている。主な取組2点目で研修について触れているが、この表現からは自律型の職員を育成していくという要素があまり感じられないので、書き方や表現をもう少し検討してほしい。
- ・施策(2)の主な取組4点目「先進事例や民間企業等から学ぶ機会の拡充」とあるが、もう少し分かりやすく「積極的な外部派遣」という表現を入れてもよいのではないか。
- ・大学生の就活において、公務員や銀行の人气が落ちてきている。他市では、兼業を広く認めている自治体もある。副業や兼業、オフィスカジュアルの導入なども含め、柔軟に働けることをもう少し示せるとよい。